

首里城復興基金による材料調達の見進捗状況

令和 6 年 9 月

沖縄県



1. 正殿復元に用いる木材の調達状況

令和5年から大径材等を県で調達し、正殿に搬入。

■ヒノキ[大径材]

- ・柱材 令和5年1月～3月に全4回で搬入(計165本)
- ・小屋丸太梁 令和5年3月に全2回で搬入(計4本)

■イヌマキ[大径材]

- ・向拝柱用として、令和4年1月に収穫し、令和5年3月14日に搬入(計6本)

■オキナワウラジログシ(県産材)[大径材]

- ・小屋丸太梁用として、令和4年2月上旬に収穫し、令和5年3月24日に搬入(計3本)

■造作材など

- ・令和5年7月～令和6年10月頃まで搬入予定

<主な産地>

- ・ヒノキ 奈良、三重
- ・ヒノキアスナロ 青森
- ・スギ 熊本、奈良
- ・イヌマキ 長崎ほか九州各地

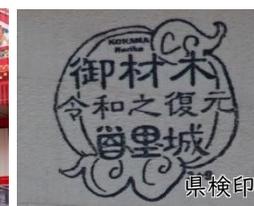
→県産イヌマキは台御差床や国王専用階段手摺などで部分的に予定

- ・クスノキ 埼玉

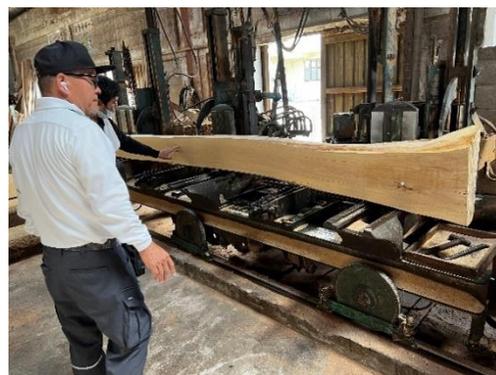
→県産クスノキは向拝奥の彫刻物(金龍)で部分的に予定



首里城木材倉庫への搬入状況



オキナワウラジログシをご提供いただいた地域の方々へ端材を活用して御礼(首里城とのつながりを示す展示物)



県産イヌマキ製材確認



県産クスノキ調達状況

2. 正殿復元に用いる県産材の後継木の育成状況

■ 苗木づくり [R4.2]

参加者：国頭村内小学校 児童 約20名

○「国頭村と首里城のつながり」として琉球王国時代から、やんばるの豊かな森からの恵み(収穫物)は暮らしの中で大事に使ってきたこと、多くの人の力を集めて首里城がつくられたことなどの歴史を学びました。

○子どもたちが苗木づくりを経験して、やんばるの森と首里城が大事にされ未来へ残されるよう、持続的なつきあい方を考えるきっかけとして話し合いました。



正殿の小屋丸太梁に用いられたオキナワウラジロガシの後継木の地元児童による苗木づくり

■ 収穫跡地への植樹 [R4.11]

○子どもたちがつくった苗木が、苗高50cm程度に成長したので、後継木として森林関係者により植林されました。



地元児童がつくった苗木の収穫跡地への植樹状況



平均樹高 6m
平均胸高直径6cm

植栽後10年経過した造林地

■ 植栽後の生育確認

○植栽後は、適宜、様子を見ながら、年2回程度の下刈などの継続的な保育管理を行うこととしています。



後継木の生育確認 樹高1.0~2.0m程度 [R6.8撮影]

○沖縄本島の北部地域では、オキナワウラジロガシの植栽を平成6年度から約3ha行っており、約2千本以上の樹木の生育が確認。(R3.4時点) 3